

○主題 誰もが安心して生活できる社会をつくるために【内容項目：C（公正、公平、社会正義）】

○ねらい

- ・教材「結婚をめぐる親戚同士の会話」をもとに自己の生き方を考えることを通して、誰もが安心して生活できる社会をつくっていかうとする態度を育てる。

【人権教育を通じて育てたい資質・能力】

- ・人権侵害や不合理に気づき、それらを指摘することができる。【技能】
- ・人権尊重に向けた行動とは何かを考え、より良い方法を選択し、行動しようとする。【態度】

○教材 「結婚をめぐる親戚同士の会話」

○指導の展開及び指導上の留意点

※丸数字は「とっとりの授業改革【10の視点】」

	学習活動	◎主な発問等 ・生徒の反応	指導上の留意点と評価方法（※）
導入	1 本時で扱う道徳的価値について問題意識をもつ。	◎現代社会にある人権課題にはどんなものがありますか。 ・部落差別、在日韓国・朝鮮人への差別、障がいを理由にした差別など	○社会科等で学んだ内容を想起させる。 ○人権課題について幅広く問いかけ、自分たちが暮らす社会全体に目を向けさせることで、本時で扱う道徳的価値への導入を図る。
めあて：誰もが安心して生活できる社会をつくるために、どんなことが大切なのかを考えよう			
展開	2 教材を読んで（ロールプレイでも可）、Aさん、Bさんそれぞれの思いや考えを想像し、あらゆる差別を容認している要因は何かについて考えを深める。	◎Aさんが①の発言をした時、どんな思いや考えがあったのでしょうか。 ・みんな喜んでくれるといいな。 ・親戚（世間）がどう思うか気になる。知りたい。 ◎Bさんが②の発言をした時、どんな思いや考えがあったのでしょうか。 ・知りあいがこのことを知ったら、何と思うのだろう。気になるな。	○教材の（ ）の中には、導入で確認した人権課題における社会的マイノリティを想定して展開していくが、下記のことに留意する。 ・児童生徒の多様性を踏まえた上で、（ ）に関わる当事者が教室の中にいるとの前提に立つ。 ・「自分は（ ）でなくてよかった」という意識が生まれることがないように留意する。 ・差別は、されている人がいない場においても起こりうることで、当人がいない場でこうした話をするのは、不安を広げてしまいかねないことを伝える。 ・（ ）の中に、どの人権課題における社会的マイノリティを入れても同じことが言えることを念頭に置き、指導を展開する。 ○生徒の反応を取り上げながら、世間から自分たちが（ ）の関係者と見なされる可能性を避けようとする意識（忌避意識）や無自覚な言動、同調圧力などによって、結果として差別行為に繋がってしまう可能性があることを確認する。 ※あらゆる差別を容認している要因について気づくことができたか。（観察・ワークシート）
	3 Dさんの発言の真意を考え、意見交流する。	◎DさんとEさんが発言した後、私は安心して気持ちになったとありますが、Dさんはどんなことを言ったのでしょうか。 ・よかったね。おめでとう。 ◎実際のDさんの発言内容は、憲法が保障している基本的人権の尊重をふまえたものといえます。紹介します。 「本人が決めたんだよね。そのことに何か問題でもあるの？何も問題はないし、おめでとういことだから、みんなで祝福しよう。」	○Dさんの言葉は、少し考えさせる程度にする。

		<p>◎こう発言したDさんには、どんな思いや考えがあったのでしょうか。(⑤)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結婚するふたりが(人権を侵害されることなく)幸せになってほしい。 ・Aさんの不安を払拭したい。 ・自分にとって大切な人たちが「差別する人」になってほしくない。 ・差別にてあった時が当事者だから、自分には差別をなくす力がある。 	<p>○生徒の反応を取り上げながら、多面的・多角的に考えたり、自己の生き方について考えを深めたりできるようにする。</p> <p>○Eの発言にも着目させることで、差別をする人も、される人もつくり出さないための方法は一つではないことを伝える。</p> <p>○結婚に関する価値観は多様であり、結婚をする、しないに関わらず、それぞれの生き方が尊重されるべきであることを確認する。</p>
終末	4 学習を振り返り、めあてについての考えを深める。	<p>◎誰もが安心して生活できる社会をつくるために、これから大切にしたいことはどんなことですか。(⑧)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おかしなこと」に気づくこと ・その場の雰囲気に流されなくて、正しいと思うことを貫くこと ・伝えたいことを相手が受け入れやすい言い方で伝えること 	<p>○クラスや家族など様々な社会集団の一員である自分自身に焦点を当てて、自己の生き方について、今日の学習の成果を活かして考えるよう促す。</p> <p>○意見交流する。(ペアまたはグループ等)</p> <p>※誰もが安心して生活できる社会をつくるために大切なことを考え、今後の生活に活かそうとする意欲がもてたか。(ワークシート)</p>

【教材】

中学3年生のお正月、わたしの家に親戚たちが集まりました。おじさんやおばさんたちが話をしています。その会話の中にわたしは入っていませんが、内容は聞こえてきます。



Aさん : 娘が結婚したいって言い出したんだ。・・・①

わたしは、「それはよかった。おめでたいことだな。」と思いました。

Bさん : そうなんだね。その相手の方はどんな人なの？

Aさん : その人は()の人なんだよね。

Bさん : Aさんはその結婚を認めるの？

Cさん : 周りの人たちがそのことを知ったら、どう思うのかな・・・。世間からどう思われるのかな、娘さんも私たち親せきも・・・。

Bさん : そうだよね・・・。・・・②

わたしは、「この後どんな会話になるんだろう。」と思い、不安な気持ちになりました。

Dさん :

Eさん : そうだよね。おめでとう。

わたしは安心した気持ちになりました。

その後、Aさんの娘さんは、親戚たちを含め、多くの人たちに祝福されて結婚したそうです。

※教材の()の中は、導入で確認した人権課題における社会的マイノリティを想定して展開していきます。

例) 同和地区、障がい者、外国人等指導上の留意点を踏まえ、児童生徒の実態等に応じて学習を展開してください。